

薩摩硫黄島の火山活動解説資料（平成 22 年 10 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態で経過しました。

火山性地震は少ない状態で経過しましたが、28日、30日及び31日に増加しました。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。

平成19年12月1日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 10月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図2、図3）

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いており、白色の噴煙が火口縁上概ね200m（最高高度は火口縁上300m以上）まで上がりました。

22日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、前回（5月13日）と比べて硫黄岳山頂火口及びその周辺の状況に特段の変化ありませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2）

火山性地震は9月6日以降少ない状態で経過しましたが、10月28日、30日及び31日に増加し、月回数は362回（9月：557回）でした。

火山性微動は観測されませんでした（9月：なし）。

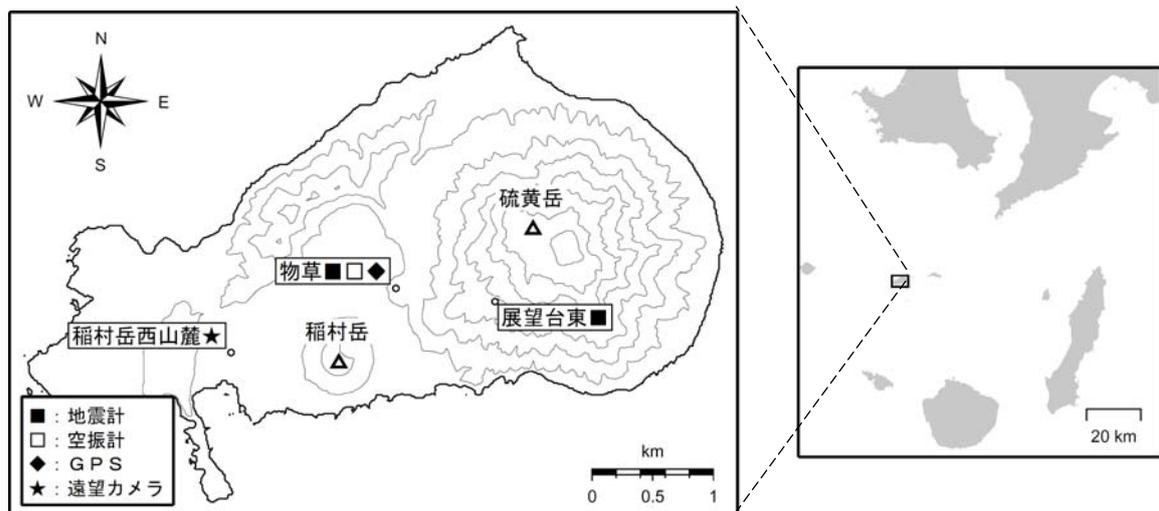


図1 薩摩硫黄島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁の観測点位置を示しています。
運用開始前の観測点も含まれます。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成22年11月分）は平成22年12月8日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、海上保安庁のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平20業使、第385号）。

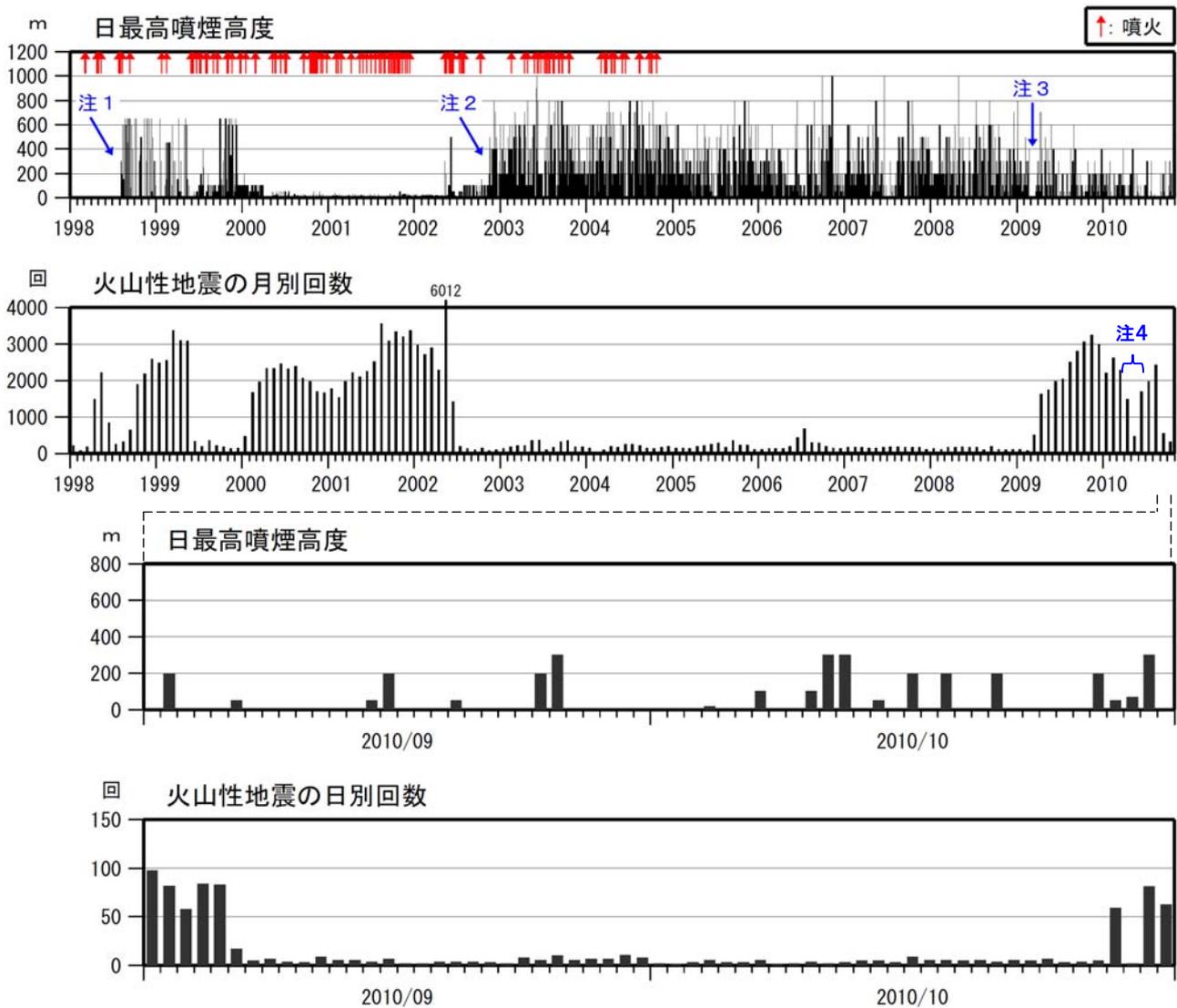
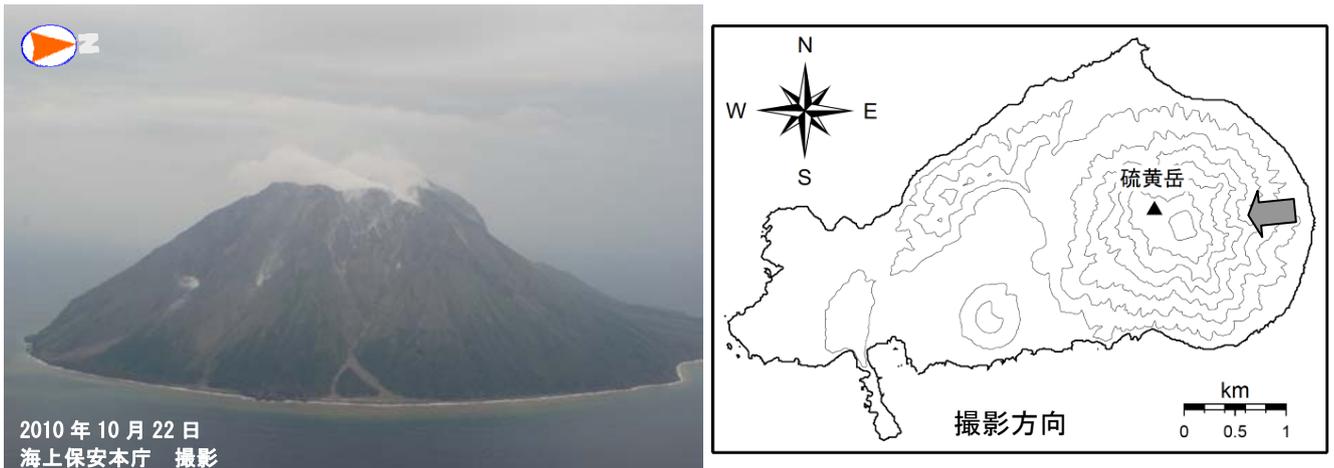


図 2 薩摩硫黄島 火山活動経過図（1998 年 1 月～2010 年 10 月）

<10 月の状況>

- ・白色の噴煙が火口縁上概ね 200m（最高高度は火口縁上 300m以上）まで上がりました。
- ・火山性地震は 9 月 6 日以降少ない状態で経過しましたが、10 月 28 日、30 日及び 31 日に増加し、月回数は 362 回（9 月：557 回）でした。

- 注 1 1998 年 8 月 1 日 三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。
 注 2 2002 年 11 月 16 日 気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。
 注 3 2009 年 2 月 23 日～3 月 21 日 遠望カメラ障害のため噴煙は不明。
 注 4 地震計障害のため火山性地震及び火山性微動の回数が不明の期間がある。



2010年10月22日
海上保安本庁 撮影

図3※ 薩摩硫黄島 硫黄岳周辺の状況

22日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、硫黄岳山頂火口及びその周辺の状況に特段の変化はなく、硫黄岳山頂火口から白色の噴煙が上がっているのが確認されました。